

「西宮に生まれてよかった」そう言ってもらえる為に。

2

阪神・淡路大震災で西宮が学んだことは何か？

4

このチラシは全部で4種類作成しています。こちらは第2号です。



はまぐち 仁士 42歳・新人 無所属

<プロフィール>

- ◆1972年6月西宮市生まれ。小学5年生の息子と1歳の娘の父。
- ◆市立大社幼稚園、市立苦楽園小学校、市立苦楽園中学校、県立甲山高等学校卒業。
- ◆神戸ベイシェラトンのオープニングスタッフ等を経て1998年に松原町にて「Cafe&Bar savro (Bar三郎)」、2000年に西宮浜にて「Trattoria & Cafe COMODO」をオープン。
- ◆2014年西宮市長選挙で今村岳司スタッフとして活動後、私設秘書に就任。2014年9月末で秘書業務とすべての店舗を撤退して政治活動を開始。

多くの方に反響を頂いております！お気軽にご連絡を！

この活動を通じてたくさんの方から反響を頂いております。
そしてもっとたくさんの方々とお話がしたい。そんな思いが日々強くなっております。
「大好きな街だから」「こどもや孫の未来の為に」「安心して老後を暮らせる街にしたい」
皆さんのそんな西宮への思いを是非お聞かせください。

お問い合わせ先: TEL:090-8167-8136 Mail:h.hamaguchi0602@gmail.com

 <http://goo.gl/pEHp1>  <http://www.h-hamaguchi.com/>

阪神・淡路大震災から二十年が経った今、改めて考える事。

突然襲った大きな揺れ。横倒しの高速道路。焼け野原の神戸市長田区。道路や橋は寸断され、ライフラインは全て止まり、必要な物資が届かない。長期間の避難所生活。余震の恐怖や将来の不安に押しつぶされそうな日々。

一九九五年一月十七日午前五時四十六分に発生した阪神・淡路大震災。六千四百三十四名の尊い犠牲者を出したこの大災害で、私たちはいったい何を学び、これから何をすべきなのでしょう。

私が進めたいのは「災害発生直後の地域防災活動の強化」です。

震災発生直後、警察・消防・救急全てが機能低下に陥りました。救出が遅れた結果、救えたはずの命も救えなかった。そうならないためにも道路が狭い地域、橋の倒壊で寸断される可能性の高い地域へ救助備品の整備強化や初動救命指導など最低限の備えを行う必要があります。

生活用水や消防活動に必要な水源を確保する為にも、非常時に確保が困難と予想される区域への井戸の整備を行います。

避難所生活は精神的にも肉体的にもとても厳しい環境です。そんな環境でもできる限り環境を整備することは重要です。「乳児・新生児を持つ親への環境整備」「こどもへの精神的サポート」「高齢者の健康管理」「最大限のプライバシー確保」など私たちの経験を踏まえ

しっかりと対応していかなければなりません。

このような環境を整備する上で私が重要と考えるのは「効果的な共助活動を行える自治会組織の確立」です。

どれだけ行政が準備を行っていても、発生後すぐには十分機能しないことが考えられます。そんな時こそ町の人たちが助け合い、協力できる体制を行える環境。つまり「自治会」が災害に対応できる機能の強化です。大きな問題なのが自治会の現状を市がどれだけ把握しているかです。自治会活動に携わる方々から伺った問題点は次の通りです。

- ①自治会によって活動力が大きく異なる。
- ②自治会への参加に消極的な方が多く、若い世代の参加が少ない。
- ③自治会同士の情報交換が機能していない。

この整備を行うためには問題点を先に解決する必要があります。西宮市全体で考える防災のあり方を進めることはもちろんですが災害発生直後の対応はこの自治会レベルの機能が如何に発揮されることが大きなポイントになると考えます。

「自助・共助・公助」全てが機能的に発揮されることで災害による被害は減少出来ます。その為にもこれからの自治会のあり方を考え直し、各自治会が機能的な防災対策を行うことが出来るよう取り組んで参ります。

最後まで読んで頂き誠にありがとうございました。